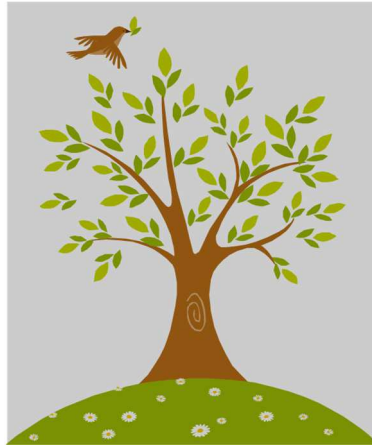


日本ダルクローズ音楽教育学会
創立 45 周年記念大会(第 18 回研究大会兼)



2018 年 11 月 11 日(日)

会場：東京家政大学 板橋キャンパス
主催：日本ダルクローズ音楽教育学会

当学会は、創立 45 周年を迎えます。
11 月 11 日（日）創立 45 周年記念大会（第 18 回研究大会兼）
を東京家政大学にて開催いたします。
多数のご参加をお待ちしております。

◎日本ダルクローズ音楽教育学会

○創立 45 周年記念大会（第 18 回研究大会兼） 実行委員会委員名（五十音順）

*実行 委員長：山下 薫子

*事 務 局 長：大谷 純一

*実 行 委 員・荒金 幸子・板野 和彦・板野 晴子・入江 眞理・大谷 純一・川口 潤子
・神原 雅之・佐藤 邦子・鈴木 恵津子・関口 博子・高倉 弘光
・高牧 恵里・津嶋 啓一・中館 栄子・中山 裕一郎・福島 省吾
・松井 いずみ・宮 祐子・山下 薫子・吉田 恵（20 名）

*補 助 委 員・受付・案内・会場等での補助学生 東京家政大学生 10 名

ご挨拶 創立 45 周年を迎えて

日本ダルクローズ音楽教育学会

会長 福嶋 省 吾

本日、学会創立 45 周年記念大会（第 18 回研究大会兼）を東京家政大学のご厚意により、大学の施設をお借りして開催することができましたこと、心より感謝申し上げます。

2018 年度の事業として、6 月 3 日に第 51 回研究例会が開催され、活発な研究協議を得ることができ、そして本日創立 45 周年記念大会(第 18 回研究大会兼)の開催を迎えることとなりました。

さて、本学会創立の略歴を今一度簡単に触れておきたいと思います。本会は 1967 年 8 月 1 日国立音楽大学Ⅱ類（リトミック専攻）「同窓会」として発足し、その後リトミック教育研究を深めることを目的として 1973 年 6 月 30 日「ダルクローズ音楽教育研究会」に改称して会則を改定しました。次いで 1994 年 6 月 5 日「日本ダルクローズ音楽教育研究会」と再度改称して研究活動を展開しました。そこで研究成果を問う意味で 1998 年 11 月 23 日国立音楽大学附属小学校を会場にして、研究会創立 25 周年記念大会を開催し、260 余名の参加者を得て成功裡に終えました。この記念大会を踏まえてさらに学術研究団体として活動すべく、1999 年 6 月 6 日会則および細則等を全面改正して「日本ダルクローズ音楽教育学会」（日本学術会議協力学術研究団体登録）となりました。従って 1973 年「研究会」から 2018 年『学会』までの 45 年間の活動でした。

この 45 年間一貫して掲げてまいりました本学会の目的は「ジャック＝ダルクローズの音楽教育（リトミック）に関する研究協議を行い……」であります。学会ですので学術的な基礎研究と実践的な臨床研究を積極的に推進すべく研究環境を整備してまいりました。これまで研究例会を 51 回開催し、年次研究大会を第 17 回開催して多くの会員の研究発表の場として研究環境を設定することができました。さらに学会誌『ダルクローズ音楽教育研究』を 42 号まで刊行、周年事業として『研究論集』を 3 冊刊行、『会報』を 72 号まで発行するなど、多数の会員による多くの研究発表および研究論文を通してリトミック教育研究の成果を着実に蓄積してきたことと思います。この 45 年間における歴史的経緯とその研究的資産は、わが国の音楽教育の分野において、少なからず貢献してきたのではないかと思います。ここで当学会の役割をあらためて確認すれば、第一は E.ジャック＝ダルクローズが考案した「リトミック」または「リトミック教育」において実践的臨床的な研究を深めることと、哲学的心理学的そして教育学的な理論研究および文献史料に基づく基礎研究を推進していくこと、そのために研究環境を設定することです。そしてこれらの研究分野を深めながらその真理を探究することです。第二はこの基本的な研究分野から、生涯教育ともいえる幼児から大人までの音楽教育の一分野として、リトミック教育の豊かな実践を積み上げ、これらの実践事例研究を積極的に理論化していくための研究環境の場でもあります。

当学会は、創立 45 周年を記念するとともに、50 周年および 100 周年を展望してこの二つをリトミック教育研究の柱として研究活動を推進して行ける研究環境を整えていきたいと思います。

創立 45 周年記念大会には多数のご参加をお願いし、活発な研究協議が行われますことを期待いたします。

（ふくしま しょうご／東京福祉大学）

創立 45 周年記念大会に寄せて

実行委員長 山下 薫 子

本学会の研究活動は、その設立趣旨から、自ずと 2 つの方向性を有すると考えます。

一つは、ジャック＝ダルクローズが考案したリトミックについて、その本質を追究する、すなわち「深める」という方向性です。例えば、彼の理念や歴史的経緯などを文献に基づいて詳細に吟味すること、指導方法を学習者の実態に応じて改善することなどが挙げられます。創立以来 45 年の歴史を有する本学会においては、こうした課題に真摯に取り組んできており、着実な成果を上げていることは周知のとおりです。

もう一つは、リトミックの原理である音楽と動きとの関係について考察し、その発展の可能性について思考をめぐらす、すなわち「広げる」という方向性です。具体的には、リトミックの体系に限らず、時には教育学や心理学、神経科学等、隣接諸科学の研究者とも協力しながら、音楽教育のあるべき姿、動きのもつ可能性について検討することなどが考えられます。

今、学校の音楽教育では、「体を動かす活動」に注目が集まっています。感性や想像性の源にある体の動きの重要性が広く認識されるようになったのです。小学校学習指導要領解説（平成 29 年）には、次のように示されています。

児童が音楽を全体にわたって感じ取っていくためには、体のあらゆる感覚を使って音楽を捉えていくことが必要となる。児童が体全体で音楽を感じ取ることを通して、音楽科の学習において大切となる想像力が育まれていくのである。このように、児童が音楽との一体感を味わうことができるようにするためには、音楽に合わせて歩いたり、動作をしたりするなどの体を動かす活動を取り入れることが大切である。

これにより、表現の領域のみならず、鑑賞の領域においても、「体を動かす活動」を通した学習の可能性が追究されるようになっていきます。今こそ、本学会がこれまでの研究成果を広く学校教育の場に還元し、大きな飛躍を遂げるチャンスだと言えるのです。

今年度の大会においては、研究発表やワークショップで主として一つ目の方向性が、シンポジウムでは二つ目の方向性が、それぞれ追究されることになるのでしょうか。

本大会に様々な形でご協力くださった全ての方に感謝申し上げるとともに、5 年後の創立 50 周年を見据えて、私たちが今、取り組むべき喫緊の課題について、活発な議論が沸き起こることを期待しています。

（やました かおるこ／東京藝術大学）

大会参加要項

◎主催：日本ダルクローズ音楽教育学会

創立 45 周年記念大会（第 18 回研究大会兼）実行委員会

I. 開催日時：2018 年 11 月 11 日（日）9 時 30 分受付開始

II. 大会会場：東京家政大学 板橋キャンパス 120 周年記念館、三木ホール

住所：東京都板橋区加賀 1-18-1

駅名：JR 埼京線十条駅下車 線路沿いに徒歩 10 分

（アクセス）※お越しの際は、公共交通機関をご利用下さい。

III. 時程と会場

11 月 11 日（日）時程	プログラム	大会会場
9:30～	*受付開始	小講堂ロビー
10:00～11:00	・ワークショップ A	4 号館(リズム遊戯室)
	・ワークショップ B	120 周年記念館(4 B)
11:15～12:45	・口頭による研究発表（A B C 同時進行）	120 周年記念館 (3 A)(3 B)(3 C)
12:45～13:35	昼食時間帯（休憩室含む） 《各会場にて司会者・機材との打ち合わせ》	120 周年記念館 (2 C)
13:35～13:45	大会全体会（挨拶・インフォメーション）	小講堂 (三木ホール)
13:45～14:35	・E. J =ダルクローズ作品の演奏 ～ピアノトリオ～ 演奏者 ピアノ：丹原 要 ヴァイオリン：荒井 智子 チェロ：竹本 聖子	小講堂 (三木ホール)
14:50～16:50	・シンポジウム 〈テーマ〉 ダルクローズのリトミック、コダーイ・メソード、オルフ・シュールヴェルクの日本への移入と発展について ー研究会や学会が果たした役割を中心にー	小講堂 (三木ホール)
※9:30～16:50	・学会関係資料展示 ・書籍販売（宮地楽器）	小講堂ロビー
◎18:00～20:00	・懇親会	JR 十条駅周辺

IV. 大会参加費は、以下の通りです。

1. 大会参加費

種 類	事前申込者	当日受付者	備 考
イ) 会 員	2,500 円	3,000 円	大会プログラム（発表要旨）代を含む
ロ) 一 般	3,000 円	3,500 円	〃 〃
ハ) 院・学生	1,000 円	1,500 円	〃 〃

2. 大会参加申し込み方法

事前申込：大会参加への事前申し込みも受け付けております。

- ① 会員の方：同封の「払込取扱票」を使用し、必要事項を記入してお振込下さい。
- ② 一般の方：郵便局の「払込取扱票」に[第 17 回研究大会参加費]と明記してお振込下さい。
- ③ 振込期限：11 月 7 日（水）までに下記口座へお振り込み下さい。

尚、郵便振替は事務局に届くまでに日数がかかりますので、11 月 8 日以降に手続きをされますと、行き違いになる可能性があります。お早めに申し込み下さい。

郵便振替口座番号：00170-3-60580

口 座 名 義：日本ダルクローズ音楽教育学会

3. 懇親会費は事前申込及び当日受付にて参加申し込みし、懇親会会場で支払う。(4000 円予定)

4. 院生・学生は、受付の際に学生証をご提示下さい。

5. 当日配布する『補足資料』がある方は、「研究発表」30 部、「ワークショップ」40 部、「シンポジウム」90 部印刷し、当日司会者に直接お渡し下さい。事前送付は受け付けておりません。また、大会当日会場におけるコピー機・印刷機などの使用はできません。

尚、『補足資料』の一部は各司会担当者へ事前に必ずお渡し下さい。

6. 機器の使用は、事前に申請された方のみに限らせていただきます。

また、準備の都合上「当日の申し出」には応じられませんのでご了承下さい。

- ・研究発表の方は、9：30 から、各会場にて司会者と打ち合わせと器材の確認をします。
- ・午後の J = ダルクローズ作品演奏とシンポジウムの担当者は、12：45 から各会場にて司会者との打ち合わせおよび器材のテストを行います。

7. 口頭による研究発表方法と補足資料の配布について

- 1) 発表時間は、1 件につき 30 分（時間配分：20 分発表・5 分質疑・5 分移動）です。
- 2) 発表会場では、発表時間終了のベルを鳴らします。ご協力をお願いいたします。
- 3) 1 件発表ごとに会場移動の時間を 5 分間設定しております。移動の場合は速やかにお願い致します。
- 4) 発表のための「補足資料」は、各発表者の開始直前に配布しますのでご了承下さい。
なお、残部は会場入り口の机の上に置いてありますので、ご自由にご持参下さい。

インフォメーション

1. 駐 車 場 : 学校構内には駐車場がありませんので、お車での来校はご遠慮下さい。
2. 大 会 本 部 : 小講堂（三木ホール・カフェ「コクリコ」）に設置しております。
3. 昼 食 会 場 : 昼食は、休日のために学生食堂が閉鎖されております。

昼食場所は、120 周年記念館 2 C 講義室をご利用下さい。

大学周辺に飲食店がございません。十条駅周辺にはお店があります。

4. 交 通 案 内 : プログラムの裏表紙に掲載されている「交通案内図」をご覧ください。
5. 会 場 案 内 : プログラムの「板橋校舎配置図」及び「大会会場図」をご覧ください。
6. 時 程 と 会 場 : 当日の日程と会場は、プログラムの「大会参加要領」をご覧ください。
7. 懇 親 会 : 懇親会会場は、JR 十条駅周辺のお店を予定しています。

参加者相互の親睦を図る意味で開催いたします。多数のご参加をお待ちしております。
尚、受付にて懇親会に参加を申し込まれた方は、懇親会会場にて係にお申し出下さい。
会費は懇親会会場にて清算いたします。

<諸注意>

1. 喫煙：全構内のすべてが**禁煙**ですのでご承知置き下さい。
2. ワークショップの会場の 4 号館リズム遊戯室及び 120 - 4B 講義室は、**上履き**が必要です。
3. ご自分の「**ゴミ**」は、必ずお持ち帰りください。
4. すべての会場において、写真撮影、録画、録音はご遠慮ください。
5. 地震など緊急事態発生の場合は、構内緊急放送の指示により、避難行動をして下さい。

日本ダルクローズ音楽教育学会

創立 45 周年記念大会（第 18 回研究大会兼）実行委員会

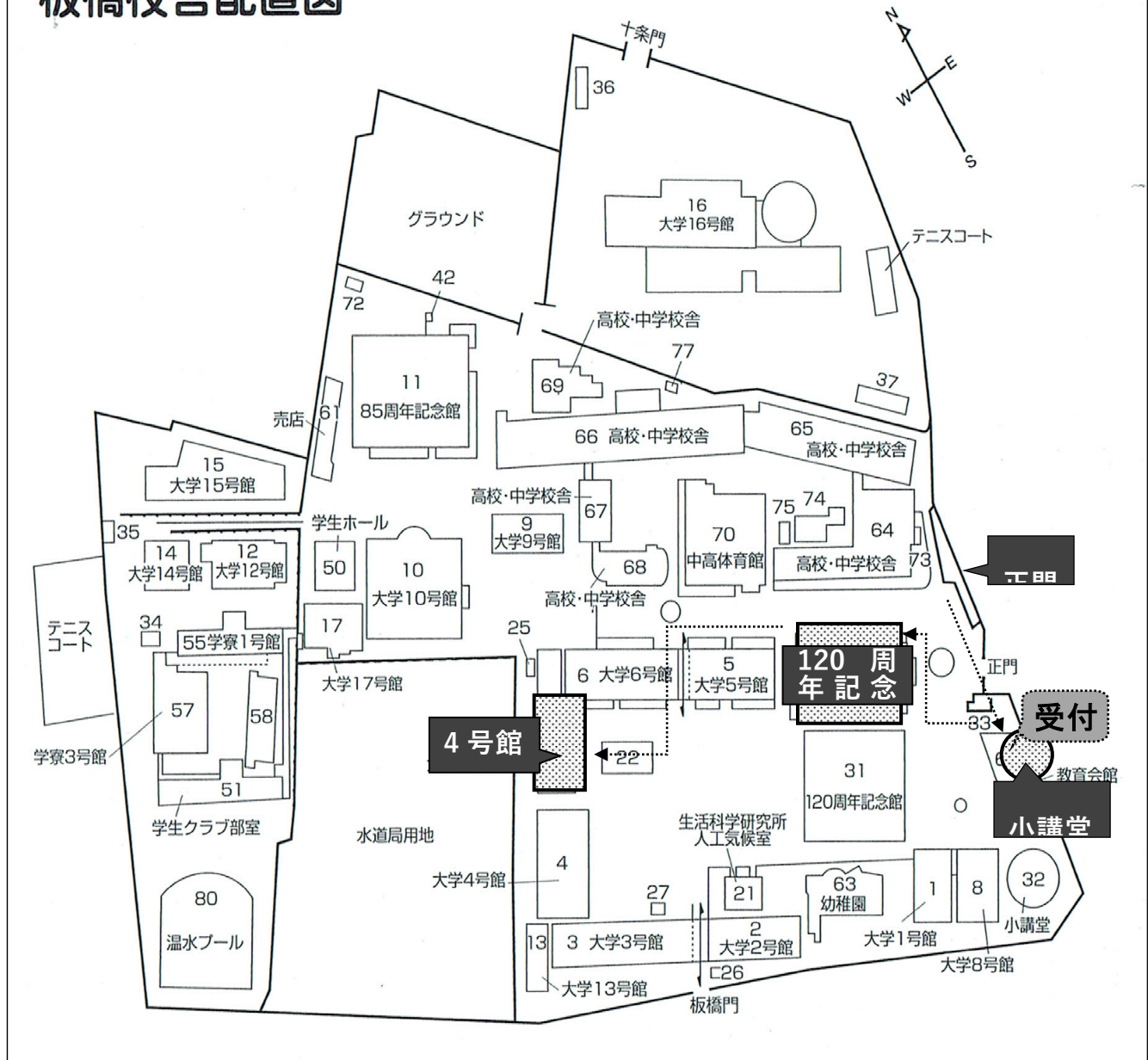
事務局 〒185-0003 東京都国分寺市戸倉 3-2 1-7（福嶋 気付）

TEL & Fax : 042-575-7270

E-mail : info@eurhythmic.jp

URL <http://www.eurhythmic.jp/>

板橋校舍配置図



創立 45 周年記念大会（第 18 回研究大会兼）使用会場一覧

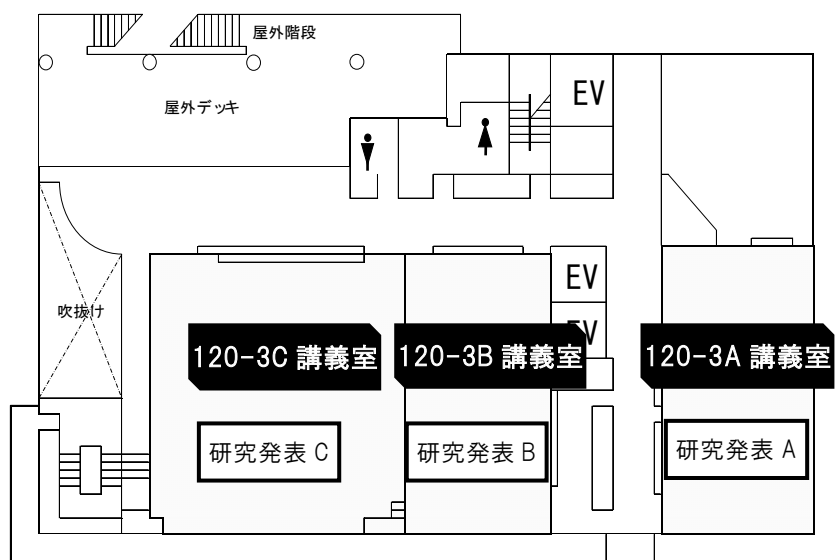
- | | | |
|--------------------------|---------------|---------------|
| ・受付会場 | 小講堂 | ロビー |
| ・ワークショップ A 会場 | 4 号館 1 階 | リズム遊戯室 |
| ・ワークショップ B 会場 | 120 周年記念館 4 階 | 120－4B 講義室 |
| ・研究発表 A 会場 | 120 周年記念館 3 階 | 120－3A 講義室 |
| ・研究発表 B 会場 | 120 周年記念館 3 階 | 120－3B 講義室 |
| ・研究発表 C 会場 | 120 周年記念館 3 階 | 120－3C 講義室 |
| ・昼食会場・参加者休憩室 | 120 周年記念館 2 階 | 120－2C 講義室 |
| ・大会全体会会場（挨拶&案内） | 小講堂 | 〈三木ホール〉 |
| ・J=ダルクローズ作品演奏（ピアノトリオ） | 小講堂 | 〈三木ホール〉 |
| ・シンポジウム会場 | 小講堂 | 〈三木ホール〉 |
| ・学会関係資料展示会場・書籍販売会場（宮地楽器） | 小講堂 | ロビー |
| ・大会本部 | 小講堂 | ロビー（カフェ・コクリコ） |

各会場図

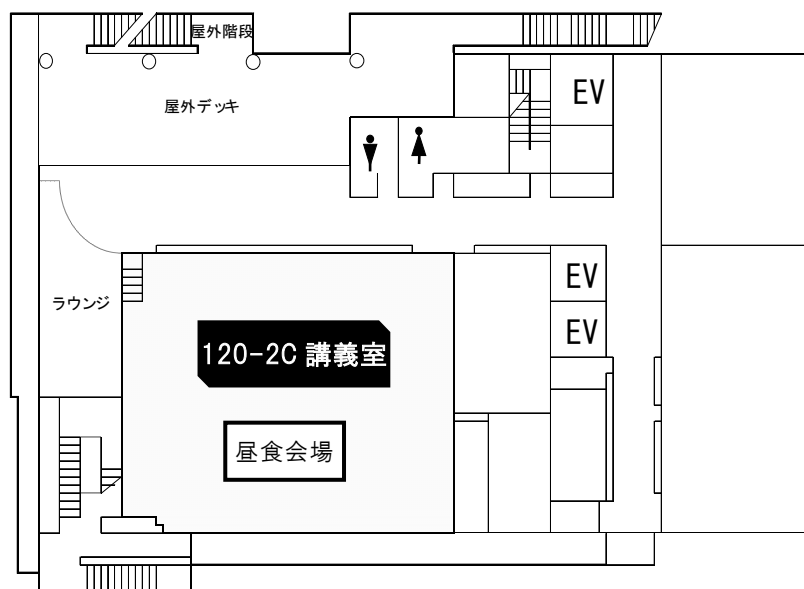
120 周年記念館



(4階)

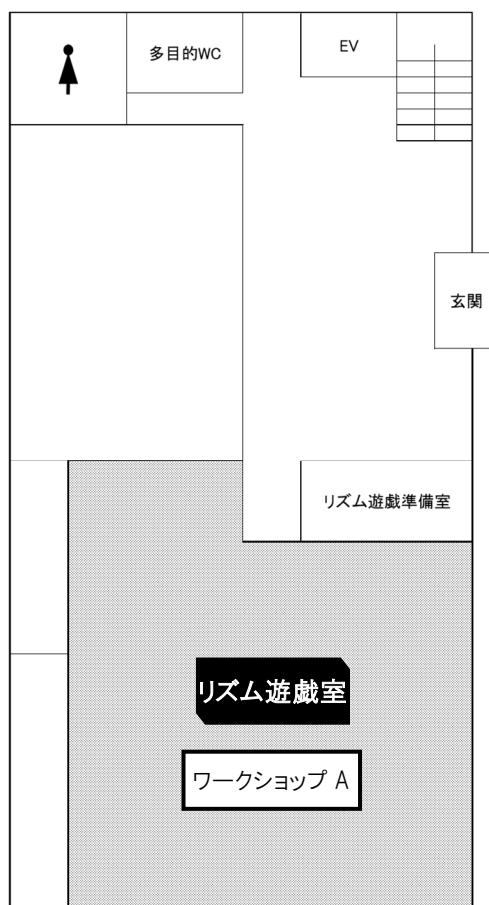


(3階)

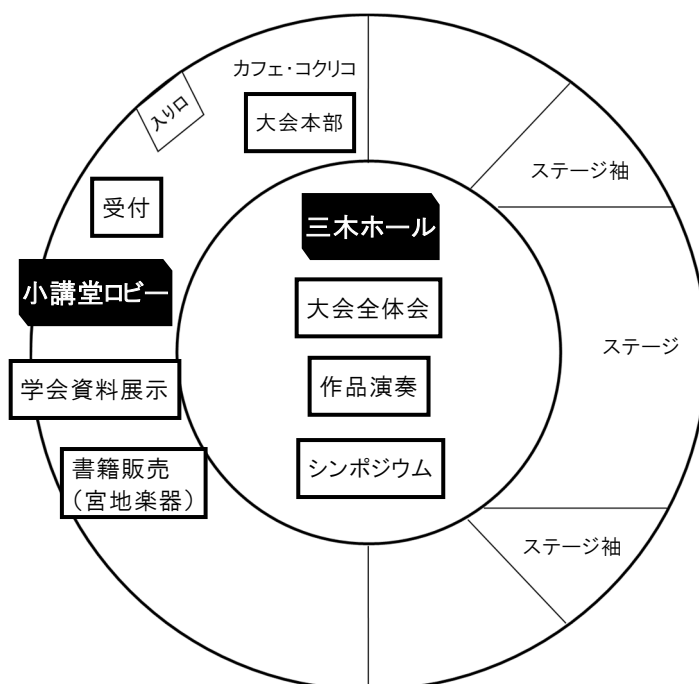


(2階)

4 号館



小講堂



ワークショップA

～大人のダルクローズ・ソルフェージュ体験～

講師：高田 美佐子（尚美学園大学）

企画・司会：中館 栄子（アンサンブルユーリズミックス）

《企画趣旨》

本学会のこれまでのワークショップでは、やはり E.J=ダルクローズのリトミック、その中でもリズム(運動)に関連する企画が多かったように思う。そこで今回は、機会の少なかったダルクローズ・ソルフェージュを体験して、E.J=ダルクローズの音楽観、教育観を深く知ろう、という企画である。A「大人のダルクローズ・ソルフェージュ体験」とB「子どものためのダルクローズ・ソルフェージュ指導」の2つから選択し、参加者各々の次なるステップへ繋げていただけたら幸いである。

尚、A「大人のダルクローズ・ソルフェージュ体験」の講師には、ダルクローズ・ソルフェージュやフォルマシオン・ミュージカルのソルフェージュ指導を実践研究なさっておられる高田美佐子会員がお引き受けくださった。（中館）

《ワークショップ内容》

ダルクローズソルフェージュは、音と音との関係を感じ取り、聴き取ることを大切にします。空間を意識しながら身体で表現し、歌い、分析し、理解し、さまざまなエクササイズを通して、音楽作品に近づき、味わう能力を養っていきます。ソルフェージュのレッスンではありますが、そのなかにリズムや即興の要素も加わり、総合的な学びとなっていくのです。

今回は、音と音との距離（空間）を表す「音程」に注目します。音の高低を身体で表現することからスタートし、だんだんと、2つの音を相対的に聴き取ったり、歌ったり、動いたりしながら、音程を意識していきます。

そして、ルネサンス後期の素敵な歌へと向かっていきたいと思います。（高田）

☆動きやすい服装でご参加ください。

ワークショップB

～子どものためのソルフエージュ指導～

講師：平島 美保（元東京純心女子大学教授）

企画・司会：佐藤 邦子（東京家政大学）

《企画主旨》

リトミック教育の3本柱であるリトミック・ソルフエージュ・即興の《ソルフエージュ》に焦点を当て、改めてダルクローズのソルフエージュとはどのようなものをワークショップ形式で学ぼうという企画である。

ワークショップBでは、ダルクローズのソルフエージュ研究を長年してこれ、特に子どものソルフエージュ指導について優れた実践をしておられる平島美保会員に「子どものためのソルフエージュ指導」について講話をふくめたワークを引き受けていただいた。

さまざまなソルフエージュの方法の中でも、非常にユニークなダルクローズのソルフエージュを、子どもにどのように指導するのか、体験を中心とした学びによって、ダルクローズ・リトミックについて再考する機会になれば幸いである。

《ワークショップの内容》

幼児期に行うダルクローズソルフエージュは、絶対音感を身に付けさせるために行うものとしてとらえられていない。音と音の関係や音質・響き等の内面的要素である音色である「音」に関する学習であると言える。これらを可能にし、音楽を感じとるには、『よい耳』を育てなければならない。『よい耳』を持つことは良い音楽性の根源になるからである。

『よい耳』とは、音の高さの名前や和音の構成音名を当てるものではない。ダイナミクス、ハーモニーの持つニュアンス等の音の持つ性質・響き等を感じとれる耳のことを指す。つまり、感覚的に感じ取れる聴覚のトレーニングを目的として行うわけであるが、聴き取るだけでなく、それを表現する事も重要であり、その表現方法として「動く・歌う」という手段をとる。聴いたことを「身体(声含む)」という楽器で再現するのである。

今回のワークショップでは、下記のサブジェクトの中から、いくつかを取り上げ、ダルクローズ ソルフエージュをシェアしたい。

- ① 全音・半音 ② 音の並び(音列)と方向性(上行・下行・停留)
- ③ 属七から主和音への解決 ④ 和音(長3和音・短3和音) ⑤ 長調と短調
- ⑥ 和声(I・IV・V₇) ⑦ 音程 ⑧ ドの記憶 ⑨ 長調の音階の準備
- ⑩ 即興唱

E. J=ダルクローズの作品演奏

ヴァイオリン：荒井 智子（オーケストラ・トリプティーク）

チェロ：竹本 聖子（オーケストラ・トリプティーク）

ピアノ：丹原 要（リズムの森）

企画・司会：中館 栄子（アンサンブルユーリズミックス）

《企画趣旨》

日本ダルクローズ音楽教育学会では、E.J =ダルクローズの芸術論、教育論、身体論等の研究と並行して、多くの演奏家にご協力いただきながら、作曲家としてのE. J=ダルクローズ研究も続けてきた。これまでに、ピアノ曲、シャンソン、合唱曲、後期の弦楽四重奏曲等を紹介してきている。

今回は、創立45周年記念大会に相応しい作品を、と本学会としては初めての試みとなる後期のピアノトリオを紹介していくこととなった。本企画が叶えられたのは、E.J =ダルクローズ作品を深く研究、演奏されている丹原要会員のご尽力によるものである。後期円熟期のE.J =ダルクローズの芸術観・教育観・身体観も凝縮されている彼の音楽を、心行くまで楽しんでいただけたら幸いである。

(中館)

プ ロ グ ラ ム

(Andante cantabile et Rondo / アンダンテ・カンタービレとロンド)

Douze novelettes et caprices / 12 のノヴェレッテとカプリース

Set I / 第1集

1. Moderato e ingenuo
2. Allegretto
3. Poco lento e calmato
4. Allegro giusto

Set II / 第2集

5. Andante leggiero e con simplicità
6. Allègrement
7. Tranquillo e soave
8. allegretto marziale

Set III / 第3集

9. Très lent
10. Deciso e rubato
11. Un poco animato ma semplice
12. Violent

《演奏趣旨と作品について》

J.=ダルクローズの音楽作品はその数 600 とも言われる声楽作品を中心に、宗教曲以外の分野は殆ど手を付けていると言って良い。それらは彼の人生の軌跡そのものとも言える。

彼はリトミック教育の理念を創始し、それを絶え間ない努力によって大いに発展させたが、音楽教育の現場と芸術音楽の場は決して独立したものではなかった。彼はそれぞれの場を自由に行き来し、お互いを相乗的に変化し高めて行った。彼の音楽作品を鑑賞する事はすなわち、彼が音楽の世界に求めていた事を、教育と芸術の両面から合わせて体験する事に他ならない。

「アンダンテ・カンタービレとロンド」は 1905 年に作曲された、よく歌われる前半と快活な後半の 2 部から成る作品である。この頃、作曲者はジュネーヴ音楽院に勤めており、将来ある子供たちのために『Concert d'enfants : 子供のコンサート』という、教育的な意図を持ち合わせた、主にアンサンブルのための一連の音楽作品を書いた。この作品には、被献呈者とは別に 14 歳のヴァイオリニストの少女 Marguerite、14 歳のチェリストの少年 Paul、そして 15 歳の少女 Louise の名前が記されている。

「12 のノヴェレッテとカプリース」は 1924 年に作曲された、J.=ダルクローズの後期の様式を表わした、彼自身においても代表作と言っても良い、特に芸術的な音楽を指向した作品である。

全 12 の曲は、4 曲でひとつの組を成している。作品は主に調性の中で展開されるが、時折、師であった G. フォーレを想わせるような典雅な歌いまわしが見られる。拍子が目まぐるしく変わり、リズムの面への深い掘り下げが際立った特徴であるが、それらは音楽を損ねることなく、旋律によって巧妙に流れるよう処理されている。

この曲集に限らず、幾つかの後期の室内楽作品はピアノ独奏曲と兄弟のような関係を持っている。ピアノ独奏曲が、後に作曲者自らの手によって室内楽用へと編曲される事により、作品が持つ特有の多層的なリズムの構造が、より明確に伝えられる事となった。

編曲によりもたらされた恩恵は、多声部を処理する事から解放されたピアノパートが、弦楽器と共に伸びやかに音楽を表現できるようになるという技術的な側面だけではなく、この作曲者の作品を演奏するにあたって非常に悩まされる、楽譜に見つかる多くの「間違い」を正す、貴重な資料が与えられたという事でもある。

最後に、GALLO 社から出ている CD「Emile JAQUES-DALCROZE. Vol. II : Musique de chambre」に収録されている「Huit novelettes et caprices」は、本日演奏する作品の抜粋であり、便宜上「8 つの～」と題されていると言う事に触れておく。

(丹原)

日本ダルクローズ音楽教育学会創立 45 周年記念大会シンポジウムについて

企画担当：板野 和彦／高倉 弘光

1. テーマ

ダルクローズのリトミック、コダーイ・メソード、オルフ・シュールヴェルクの
日本への移入と発展について
——研究会や学会が果たした役割を中心に——

2. 企画趣旨

我が国の音楽教育の発展について振り返るとき、ヨーロッパをはじめとした海外の教育法に学び、それを取り入れ、独自に発展させた事実は看過できない重要なものである。そして、特にこの 50 年ほどの間に教育や福祉の現場、教育研究に強い影響力を持った教育法として、ダルクローズのリトミック、コダーイ・メソード、そしてオルフ・シュールヴェルクを挙げることができる。

本シンポジウムではこれらの 3 つの音楽教育法について教育理念・内容、日本への移入の経緯、教育現場での実践と発展、研究会や学会が果たした役割などについて提示し、研究協議を深めてゆきたい。そして、これらの議論を通して我が国における今後の音楽教育の在り方や内容と方法について展望したい。

3. 司会進行およびパネラー

- ・司会進行：板野 和彦 会員（明星大学、明星大学通信制大学院）
- ・ダルクローズのリトミックについて
福嶋 省吾 会員（本学会会長、東京福祉大学）
- ・コダーイ・メソードについて
中村 隆夫 先生（日本コダーイ協会会長、北海道教育大学名誉教授）
- ・オルフ・シュールヴェルクについて
中地 雅之 先生（日本オルフ音楽教育研究会副代表、東京学芸大学教授）

3. シンポジウムの流れ

- 1) 各教育法の教育理念・内容
- 2) 日本への移入の経緯
- 3) 教育現場での実践と発展
- 4) 研究会や学会が果たした役割
- 5) 将来の展望
(フロアとの討議)

日本ダルクローズ音楽教育学会 入会ご案内

○本会創立の経緯

当初は研究会として1973年に創立し、1998年11月23日に研究会創立25周年記念研究大会を開催し、260名の参加者により充実した研究大会となった。その翌年の1999年6月の会員総会において、さらに研究活動を精力的に展開すべく組織として、発展的に従来の研究会から学術団体としての学会へ名称を変更した。その後年次研究大会を開催し、次いで5年毎に創立記念研究大会を開催。2003年11月23日創立30周年記念研究大会(第3回兼)を開催し、『記念論文集』を刊行。2008年11月23日創立35周年記念研究大会(第8回兼)を開催し、『記念論文集』を刊行した。なお、2013年11月23日には、創立40周年記念研究大会(第13回研究大会兼)を開催した。なお、創立40周年を記念して『記念論集』が開成出版社から2015年に刊行された。

2017年度は、第17回研究大会を開催し、多数の参加者を得て充実した研究協議が展開された。次いで、2018年度は、研究例会第51回開催。そして、創立45周年記念大会(第18回研究大会兼)を開催している。学会誌『リトミック音楽教育研究』第43号(創立45周年特集号)の刊行を準備している。

○学会活動の目的

本会は、ジャック＝ダルクローズの音楽教育(リトミック)に関する研究協議を行い、会員が相互に協力し合ってリトミック教育の普及とその発展を図り、よって日本の音楽教育の発展に寄与する事を目的とする。(会則)

○事業

- ・研究大会、研究例会、講演会などを企画開催。
- ・学会誌「ダルクローズ音楽教育研究」の刊行。
- ・記念論文集の編集刊行。
- ・内外の学会、研究会との連絡協力。

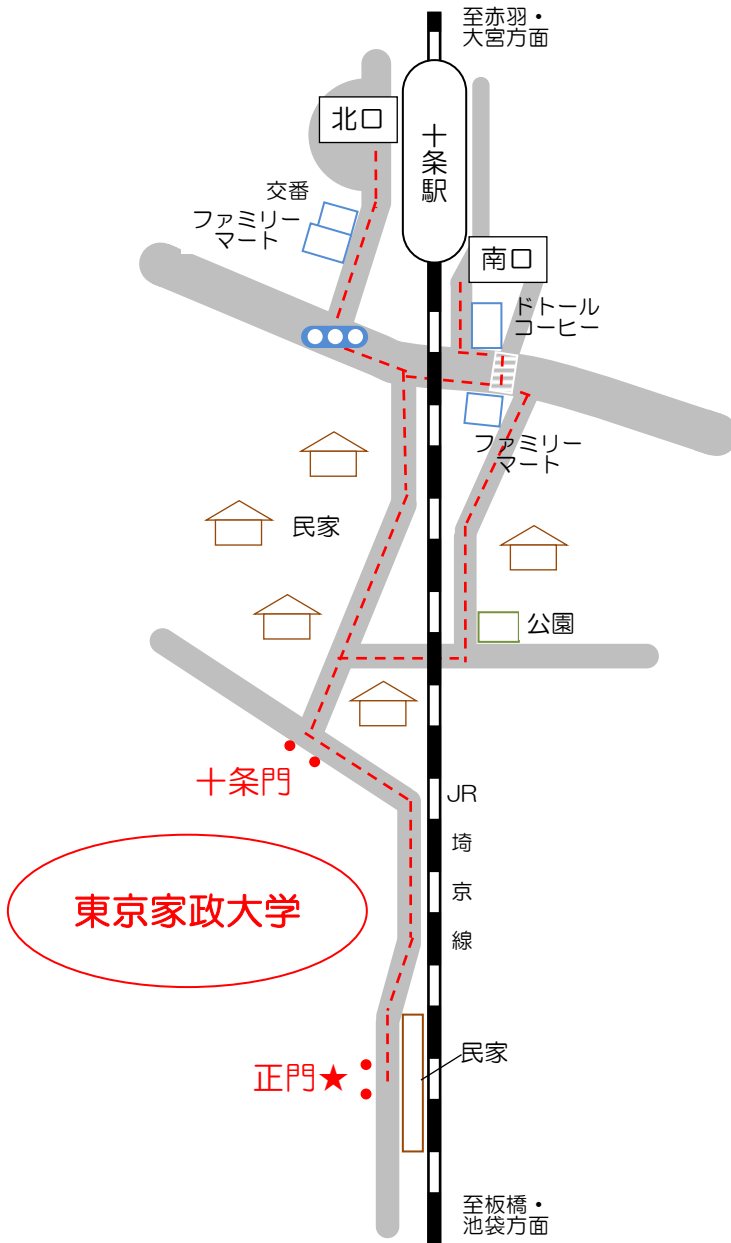
○入会資格

- ・正会員：ジャック＝ダルクローズに関する研究・実践に関わる者及び関心を持つ者。
- ・学生会員：ジャック＝ダルクローズに関心を持つ学生。

○事業の具体例

- ・研究大会は、年次大会として年1回開催している。
- ・研究例会は、年1回以上開催し、会員総会を兼ねて6月第1週目に開催している。
- ・創立周年事業として、5年毎に周年記念研究大会を開催し、同時に周年記念論文集を刊行している。

*多数のご入会をお待しています。(事務局)

[illegible]

東京家政大学 板橋キャンパス

〒173-8602

東京都板橋区加賀 1-18-1

URL <http://www.tokyo-kasei.ac.jp/>